

こんにちは♪ いよいよ明日から**図書館フェア**が始まります！ 3つのイベント、雑誌のバックナンバーをあげちゃうフェアとしおりイラストコンテストとハロウィンが幕を開けます！

まずは**雑誌のバックナンバーをあげちゃうフェア**！ 図書館の雑誌の古いものをタダであげちゃいます。雑誌の付録も！ せーやさんの集めたオマケ（ガラクタ？）なども！ 早い者勝ちです！ 何冊でも構いません！ 付録はひとつずつ！ もうみんな欲しいモノに目をつけているよね？ では、明日の朝早くにお会いしましょう！

**しおりイラストコンテスト**は、今日で応募を締め切り（まだ間に合う！）、明日からみんなに展示してあるものを審査して**“推し”**イラストを投票してもらいます。キミの1票が、印刷される10枚のしおりを決定します。がんがん投票してください！

そして、みなさんお待ちかねの**ハロウィン**ですね！ いつもは天使のせーやさんも悪魔に変身し、本を借りてくれた人には、もれなくお菓子をさしあげます！ 本をめいっぱい借りて、たっぷりとお菓子をもらってください！

さあ、いよいよ明日は**図書館フェア**開催です！

## HAPPY HALLOWEEN!

### 『人間みたいに生きている』 佐原ひかり

ちょっとハロウィンっぽい作品を。女子校の高2の三橋唯は、食べることに嫌悪感を抱いている。なんにも食べたくないのだ。お母さんが心を込めて作ってくれたお弁当の唐揚げも、友だちが友だちの証しとして食後に配ってくれる手作りタルトも、おばさんがウチにきてふるまってくれる牡蠣フライも、ぜんぶ気持ち悪くて仕方がない。いろんなことを我慢してしのいでいた唯だったが、吸血鬼の館が近くにあるという噂を耳にする。血だけ飲んで生きていけるなんてと、唯はその館に押しかけてしまう。そこには確かに血を飲んで黒ずくめの吸血鬼の泉さんがいて、唯の好きな本が無数にあった。唯は放課後の時間を食べ物臭いがしないここで過ごすようになる。お弁当も友だちのお菓子もここで捨てて…。「あそこにいる間だけは、私は不幸じゃなかった。自分のことを、かわいそうだと思わずにすんだ」。

### 『此の世の果ての殺人』 荒木あかね

史上最年少、満場一致で江戸川乱歩賞を受賞！二ヶ月後に小惑星テロスが熊本の阿蘇に激突する。人々は我先にと逃げ出し、日本に残ってる人間などほとんどいず、まして九州など論外だったが、太宰府市に残って自動車教習所に通う女性と、それにつきあう女性教官がいた。地球が滅亡するかもしれないというのに！みんな死んでしまうかもしれないのに！そんな奇特的な女性・ハルは、熊本まで一人で車を運転して、衝突予測地点でこの世の終わりの日を過ごしたいという夢があり、無免許ではまずいかなと仮免の教習所に足を運んだところ、ただひとりイサガワ先生がそこに残っていたのだった。今日から高速教習だと、教習車のトランクを開けると、そこには女性の他殺死体があった。ハルト、実は元警察官のイサガワ先生は、犯人を捕まえようと犯人捜しに乗り出す。世界がこんなふうになってしまっても。ほかにやるべきことはいくらでもあるだろうに。

### ☆『ある男』 平野啓一郎

「愛したはずの夫は、まったくの別人でした」。読売文学賞受賞の大傑作がついに映画化！愛した夫が、自分の知らない過去を持っていたらというお話。「文房具屋の里枝ちゃんの旦那」が亡くなった。林業に従事していた彼は、杉の木の下敷きになって39歳の若さで死んだのだった。わずか3年9ヶ月の結婚生活だった。最愛の者を失う、そんな人生に何度とない不幸を、実はこの若さで里枝は立て続けに味わっていた。彼女は25歳で一度、別の男と結婚している。その男との間に2人の男の子を授かったのだが、下の子を脳腫瘍のために2歳で亡くしてしまう。息子の治療をめぐる対立から離婚。その後、ほどなくして実父も急逝してしまうのだった。里枝は実家に戻ってきた。新しい夫となる大祐と出会ったのは、実家の文房具屋で店番をしているときだった。大祐のあまり上手ではないが人柄がよく現れている絵、彼女が高校のころ登下校に利用していたバスセンターの建物を描いた絵を見て泣いてしまったことをきっかけに二人は親密になった。大祐はとても不幸な過去を持っていた。兄ばかりを溺愛する家族と縁を切ってここに来たのだという。里枝は彼の告白に釣り合わせるかのように自分の秘密を打ち明けるのだった。二人は結婚し、女の子が一人生まれた。大祐が山で事故に遭ったのは娘が3歳のときだった。ところが大祐の兄がやって来て遺影を見るや、「これは大祐じゃないですよ」と言われてしまう。夫は「大祐」ではなく、彼になりすました誰かだった！里枝は離婚の世話になった弁護士・城戸に相談する…。

## 『パリの空の下で、息子とぼくの3000日』 辻 仁成

中山美穂とのパリでの生活が破綻し、シングルファーザーとなって息子とふたりきりの生活が始まった辻仁成さん。この本は、まだ小学生だった息子が、18歳になり成人して大学生になるまでのふたりの3000日の生活の記録です。「この子は少しずつ大人になっていく。その小さな人生の断片をぼくは記憶に刻んでいく。これをこそ幸せと言ってもいいのじゃないか」。離婚したばかりのころ、打ちひしがれていたふたりはあまり食べなくなっていたのだそうです。ある夜、父親の前では絶対に泣かなかった息子が寝ながら抱きしめていたぬいぐるみが涙でびしょびしょになっているのに気づきます。このままではいけない。母親の役目も果たさなくては。辻さんは得意な料理をがんばることにしました。家族のぬくもりを消さないように…。「料理をし続けることが、家族を支える偉大なる愛なのである。その愛がある限り、きっとこの子は生きていける」。「この子は自分がフランス人じゃないこと、肌の色がみんなと違うこと、親の仏語が変なこと、をコンプレックスに思っていたはずだ」。しかも、父親はロン毛で「普通」ではないのです！ そんな父親のもとで、息子は立派に育っていくのでした。「ウクレレも、音楽も、人生も、その底辺で少しだけ、父ちゃんが関係している。それくらいがちょうどいい」。味のあるイラストも辻さん本人。「この子がいつか心の底から笑える日が来ることを親としては願っている。それはきっと彼が自分の力で家族を作ったときじゃないか」。

## 『いけないⅡ』 道尾秀介

「その写真を見たとき、物語は一変する」。物語が終わったあとで挿入された一枚の写真を見るや、「真相」がわかって驚愕する。大反響を呼んだ『いけない』待望の続編！ 姉の緋里花<sup>ひりが</sup>が行方不明になってから、ちょうど一年になる。妹の桃花<sup>ももか</sup>はネットで検索をして姉のSNSの裏アカウントを見つけた。そこには行方不明になった日付で、後に河原で発見された宝物のテディベアのぬいぐるみ「てりべあ先生」の写真と「一緒に帰ってきたいようなきたくないような」というコメント、母の後ろ姿と「いまから親孝行」、鶴麗山<sup>かくれいさん</sup>の入り口と「信じるか信じないかはあなた次第」<sup>みょうじん</sup>があった。あの日、姉は明神の滝に向かったのではないか。明神の滝には、自分の大切なものと引き換えに、神様が願いを叶えてくれるという言い伝えがあった。大好きな「てりべあ先生」と引き換えに母の手術がうまくいくよう祈りに行ったのでは。姉の跡をたどる桃花は、山小屋の管理人から実は神様は願いを叶えるかわりに命を奪うのだと知らされる…。

## 『母性』 <sup>みなと</sup> 湊 かなえ

「母の愛が、私を壊した」。戸田恵梨香×永野芽郁主演で、湊作品がまたも映画化！母と娘の物語。女性には2種類ある。母と娘。母になりたい女性と、ずっと娘でいたい女性。母を信奉し、母に認められることを何よりも望むルミ子は、母親になっても娘のままでいようとした。ある台風の日、崩れ落ちた土砂で倒れたダンスの下敷きに母と娘がなり、ルミ子は母の方を救おうとした。母の悲壮な決意により娘は助かるが、ルミ子は娘を愛せなかった…。「これが書けたら、作家を辞めてもいい。その思いを込めて書き上げました」と著者が語った、渾身の作品！

## 『僕が愛したすべての君へ』

## 『君を愛したひとりの僕へ』 <sup>おとこのよもじ</sup> 乙野四万宇

「どの世界の君にも、きっとまた恋をする」。映画が二作同時公開で話題に！テスト勉強をしなくても1位を取れた中学時代にナメきっていたため友だちが一人もできなかった<sup>こよみ</sup>曆は、高校でも変われずに一人でいたが、ある日突然、<sup>かずね</sup>和音に下の名前呼び捨てで親しげに声をかけられる。実は彼女は、曆の生きている世界とは別の平行世界、45も離れた世界の和音だった…。ぜひ、同時刊行された2冊をともに読んでください！

…そのほかにも、祝デビュー 20 周年 & 新シリーズ開幕！**西尾維新『怪盗フラヌールの巡回』**、ドラマも大好評！  
**「霊媒探偵城塚翡翠」**シリーズ3作目！  
**『invert II 覗き窓の死角』**、劣化しない奇跡のシリーズは今作も旬！  
**IWGP** 18 作目**『ペットショップ無惨』**、なんと4年連続海外ミステリランキング制覇！今年も今作で記録更新は確実！  
**アソロー・ホロヴィツ『殺しへのライン』**  
などなどなど！

————— 「Trick or treat！」お菓子はあげるので、ろくでもないイタズラはしなくてもいいです！では、ハロウィンを図書館で！